

農地における汚泥肥料の施用基準設定事業

1 目 的

排水処理等で生じる活性汚泥には肥料成分の窒素、リンが多く含まれ、近年、緊迫する国際情勢等を背景に化学肥料価格が高騰していることから、国産の安価な肥料資源の一つとして期待されています。

一方、汚泥肥料は原料や処理方法によって成分量や肥料効果が多様であることから、施用肥料成分が作物に対してどのように効くのか、土壌濃度の基準が決められている亜鉛(120mg/Kg)の挙動について調査する必要があります。

そこで、本試験では、水稻、コマツナ、バレイショ、キクへの施用試験を実施します。

2 研究計画・試験方法等

- 1) 県内施設で生産された活性汚泥を原料とした肥料4種類をコマツナに施用し、各種汚泥肥料の主要成分濃度および肥効を解析します。
- 2) また、バレイショにも4種類の肥料を施用し、バレイショの亜鉛吸収量および土壌亜鉛濃度への影響について明らかにします。
- 2) 水産加工協同排水処理施設から発生する活性汚泥を原料とした肥料を水稻またはキクに施用し肥料としての有効性について検証します。

A
原料：水産加工協同排水処理施設汚泥



B
原料：下水汚泥



C
原料：下水汚泥



D
原料：メタン発酵処理残さ



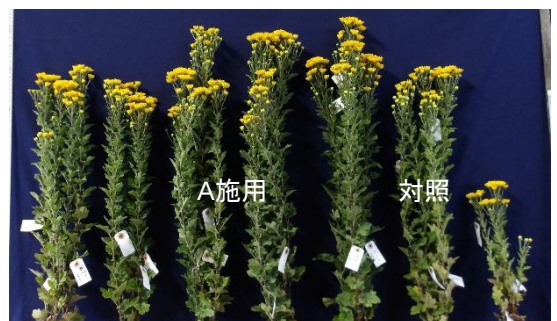
汚泥肥料外観



バレイショ生育の様子



水稻施肥試験の様子(手前A施用)



収穫されたキクの様子

